

## 第九講 文化史が抱える問題

【レポート講評】文化史とは何か。

多くのレポートは文化史を歴史学のひとつの分野と捉え、人間の精神活動とその産物を扱うと定義していた。従って言語や習俗、宗教や芸術などがその対象となる。

このように文化史を狭く、伝統的な枠組みで捉えようとする視点に対して、文化史を人間活動の総体を対象とし、芸術活動などに限定せず、幅広く捉えていこうとするレポートも数多く見られた。問題は文化をどのように定義しているのかということにある。

前者のように文化史を人間の精神活動に限定してしまうと、文化史は芸術史や宗教史、思想史や風俗史という歴史学の一分野を扱う学問であって、政治史や経済史と並列して存在している歴史学の下部領域でしかないということになる。それに対して文化を人間活動の総体として定義すると、文化史は芸術史や宗教史だけでなく、社会史や経済史なども包含する大きな学問分野ということになる。

実際、文化史は歴史と同じであるというレポートも見られた。しかし文化史を歴史から差別化しようという試みも為されていた。ただ単に政治的事件や経済的諸活動を扱うのではなく、それらの背景にある風潮や習慣、価値観という枠組みの中に落とし込んでいって、その上で政治的事件や経済活動などを評価していく、そのような学問だと、文化史を幅広く捉えようとするレポートは指摘する。

しかし、このように文化的枠組みの中で歴史を捉え直そうという姿勢に対して大きな疑問を投げかけるレポートがある。文化史を「文化の枠組みを捉えた歴史とすることはナショナリズム的側面がある」のではないかということである。この指摘は非常に鋭いと思う。この授業で繰り返し論じてきたことだが、ナショナリズムが成立する近代以前を論じるときにナショナルという枠組みが有効なのかということである。そこで多くのレポートは地域という概念を持ち出している。

もう一つの疑問は文化史が民衆の視点から歴史を見つめなおしたもの

という考えに対してのものである。日本で紹介される多くの文化史の文献が民衆の文化を扱ったものが多いということに起因している。つまり権力者の文化も文化史であって、民衆の文化に限定されるわけではないということだ。

残念ながら、文化史と歴史の違いが強調されている割には研究方法の違いやコンセプトの違いがほとんど意識されることなく、現実には一緒くたになってしまっている。それともうひとつ、日本というナショナリティーに文化史はどのように向き合っていくのか、ということについて考えを深めて欲しいと思う。

【レポート課題】「これぞ文化史と思うものを紹介しなさい」

#### 広がる文化史学の地平線

日常史、建築史、美術史、文学史、精神史、教育史、心性史、宗教史、民間宗教史、科学史、音楽史、食物史、住宅史、メディア史、文字史、生活史、生活道具史、アニメ史など・・・狭義の文化を対象文化史学の無限といってよい地平線の広さを証明してきている。

ナショナルな視点の相対化を図る必要性。

しかし伝統的歴史学の領域（政治史や経済史）を除外している。

その結果、歴史学の一領域に文化史を落とし込んでいる

全体史の主張・・・個々の領域の関係性や関係の特徴から時代や社会の全体像の再構築を目指す。

全体史という言葉と部分史という研究の実態との乖離。

#### 伝統的文化史の限界

政治や法律、経済などを文化から排除

芸術や宗教などの分野に限定

美学的解釈を研究法

政治や経済を文化として捉えていく視点の必要性

研究の専門化・細分化により文化史全体の展望が失われていく

とくに個別研究を総合化していく展望・営為・意志の欠如

理論の欠如

史料主義と解釈学的研究

統計学的研究やモデル構築の欠如

結局、歴史学と同じ研究状況に陥っている

歴史学と同じではないか

文化史の研究が文化の様式分析にとどまっていて、さらにその背景にあり文化の様々な現象や表現様式に強い影響を及ぼしている深層の、かつてはGeist（精神）と呼ばれた無自覚的あるいは自覚的な文化的価値観との関係性への解明が不十分。

政治や経済を文化としてみていく視点の必要。

文化史の功績

非文字テキストの使用

絵画や彫像、建築物、音楽などのテキスト化

考古学を文化史の重要領域と位置づける

非公文書テキストの活用

日記やお札、願文などの庶民によって作成された文書のテキスト化

非歴史学的方法論の有用性

美学的解釈法

政治史を基軸とする歴史学の限界を意識化

時代や社会を特徴付ける様式や精神性を明らかに使用と意図する

歴史の全体性を再構築しようとする

経済史や社会史、政治史、さらには歴史学の周辺に位置している研究領域を統合

人口学、古気象学、古生物学、地理学、宗教学、考古学、美術学などの研究と連動

創られる過去、創られる記憶

民族主義・国民国家統合のシンボル

金沢城  
平城宮跡  
アクロポリス